第２学年３組　道徳科学習指導案

第２校時　場所　２年３組教室　指導者　山平　恵太

１　主題名　　迷ったときに大切なことは
内容項目　Ｂ 親切，思いやり
教材名　「ぐみの木と小鳥」【本時】（日本文教出版）

２年生の子どもたちは困っているクラスメイトに「大丈夫？」と声を掛けたり，問題を考え込んでいる時に一緒に考えたりする姿が見られる。しかし，他学年や隣のクラスの人，状況が違うと躊躇してしまい，声を掛けることができない子どもが多い。これは，自分の知っている身近な人に親切にする時と，迷うことがない状況の時は親切にすることができるが，身近ではない人や迷う状況では，なぜ親切にすることが大切なのかが分からないからである。

そこで，子どもたちには親切にするかどうかで迷う時に，自分のことだけを考えるのではなくその相手のことを考え，思いやることの大切さに気づき，親切にしたいという思いをもってほしいと願う。

本実践では，教材と自分との接点を見いだすためになりたい自分ノートを活用した導入を行う。読み聞かせ後，嵐の日に小鳥がりすの家に行くかどうかの判断を迷っていた場面を取り上げ，小鳥の状況を追体験させることで，親切にすることは大切なことだと分かるが難しい状況があることに共感させていく。その上で，小鳥が飛び立つことを決めた心について議論していくことで対話を生みだしていく。この学びの中で，道徳科における見方・考え方を働かせ，迷う状況においての親切とは何かを自分との関わりで考えることができるようにしていく。

２　主題について

⑴　本主題のねらいは，親切にしたい気持ちはあるのだが，その判断に迷ってしまう状況で，相手のことを思いやり，親切にする態度を育てることである。

この時期の子どもたちは，同じクラスのクラスメイトや仲良くしている友達に対して，困っている時に手伝ったり，悩んでいる友達の相談に乗ったりして思いやりの気持ちをもち，親切な行動をすることができる。しかし，同じ学年だが，遊んだことも話したこともない人や，親切にしたいけどその判断を迷う状況の場合に，自分のことのみを考えてしまい，親切な行動ができないことがある。また，知らない相手に対して思いやりの気持ちをもち，親切にできるかと問われると「できる」と答えるものの，生活日記や道徳日記の内容，普段の学校生活での見取りから実際に同じような状況になった時に，親切な行動ができる子どもは多くはない。

これらのことから，子どもたちが「親切，思いやり」についての理解を深めていくことができるように「親切にするかどうか迷う状況で，自分のことだけではなく相手のことを考えること」のよさを取り上げる。そうすることで，迷う状況において親切にするかどうかを，単に親切な行動をとると結論づけるのではなく，なぜ親切な行動をとるのかを考え，相手のことを思うからこそ，親切な行動につながっていくのである。

本実践ではまず，今よりもさらに親切，思いやりのある自分を想起させ，なりたい自分ノートに自分の言葉で表現させていく。次に教材を読み聞かせし，嵐の日，小鳥がぐみの実を届けに行こうかどうかを悩んだ場面で，その状況を追体験させることにより，小鳥の迷いに共感させる。小鳥と同じように迷った末，りすの家に行くと決めた小鳥の心について話し合わせることで，親切にするかどうかで迷った場合にどんな心を大切にすればよいのか，多面的・多角的に考えることができるようにする。

⑵　本学級の子どもたちの実態は，次の通りである。（調査人数３６人）

「あなたが考える【親切】とは何ですか」という質問に対して，多くの子どもが優しくするこ

とと答えた。他には「困った人を助けること」「声を掛けること」と具体的な行為について回答している子ども数人いた。

⑶　本時で扱う教材「ぐみの木と小鳥」を選択した理由は以下の通りである。

この教材は，今まで低学年教材の中で扱われきた「親切，思いやり」の価値を含んでいる。例えばお話の始めに小鳥がお腹をすかしていた時に，ぐみの木は小鳥に対してぐみの実を渡している。小鳥はぐみの木にぐみの実をもらったお返しに，小鳥の家にぐみの実を届けに行っている。これは何かをしてもらったお返しに親切にするというものである。

また，小鳥が翌日もぐみの実を届けに行った際，りすの涙を見た時に親切にすると相手が嬉しい気持ちなり，自分も嬉しい気持ちになる状況が描かれている。そういった今までの学習で積み重ねてきた価値に対する理解を基に，自分にとってはあまり知らないりすに対しての親切について描かれている。あまり知らないりすに対して，嵐の日にぐみの実を届けに行くのか，しばらく待つのかという迷いを考えることを通して，「親切，思いやり」に対する見方を捉え直すことができる教材である。

⑷　指導に当たっては，次の点に留意する。

①　授業の導入では，価値と自分との接点を見いだすことができるよう，今よりもさらに親切，思いやりがある自分はどんな自分かを想起させた上で，なりたい自分ノートに記述させる。その後，今の自分とどれくらいの距離があるのかを板書することで，これから学習する価値について見通しをもつことができるようにする。

②　教材の読み聞かせをした後，登場人物の関係と，小鳥がぐみの実を届けに行った状況を把握できるように板書し，実際の嵐に近い状況の音を聞くことにより，小鳥がりすの家に行く際に迷っていた状況を追体験させる。

その上で，小鳥が迷っていった状況を役割演技することにより，小鳥の迷いを共有していく。迷った末に，りすの家に行くことを決めた心を問うことで，行くという行動の根拠となった心に焦点化し，課題を設定する。

③　展開後段では，子どもが自分の生活場面と関連させて考えることができるよう，親切にしたいという思いはあるが，それが行動として表出させることができなかった日記や写真等を提示することで，価値を自分の生活とつなげて思考できるようにし，今までの自分を想起して振り返りを書くことができるようにする。

３　本時の目標

⑴　嵐の日，小鳥がりすの家へ行くかどうかで迷った状況に共感し，決めた心について話し合うことを通して，迷ったときに何を大切にすればよいのかを考え，相手のことを思い，親切にすることの大切さを理解することができる。

⑵　嵐の日に近い状況で届けに行くのは難しいと考える立場の子どもや，親切にするには勇気が必要だと考える子どもの発言に立ち止まらせることを通して，小鳥の行動を多面的・多角的に捉え，よりよい親切について考えることができる。

⑶　親切にするかどうか迷う状況を想起し，相手のことを考えて親切にしようという思いをもつことができる。

４　指導計画（１時間取り扱い　本時：第１時）

学習活動	主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援	時間
1　親切について話し合う。	○　嵐の日，小鳥がりすの家に届けに行くかどうかを迷った場面で役割演技を取り入れることにより，小鳥の迷いを追体験できるようにする。 ○　小鳥の迷いを共有し，行くと決めた小鳥の心について問うことで，親切について多面的・多角的に考えることができるようにする。	1 【本時】

５　本時の学習

⑴　目標

小鳥の迷いに共感し，小鳥がりすの家に行くことを決めた理由について話し合うことを通して，相手のことを考え親切にすることの大切さに気付き，親切にしようとする態度を育てる。

⑵　展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
５	１　なりたい自分を想起し，学習の見通しをもつ。	○　もっと困っている人にやさしくできる自分になりたいな。 ○　親切にしたい気持ちはあったけど，できないことがあったので，親切にできる人になりたい。 ○　今の自分はそこまでないかもしれないな。
８	２「ぐみの木と小鳥」を聞き，小鳥が迷った理由を考える。	○　ぐみの木さんは，小鳥にぐみの実をあげていたから親切だね。 ○　でも，嵐はさすがに危ないから迷ったんじゃない。 ○　そうだけど，りすさんは病気だったんだよ。 ○　もし，りすさんの家に行くことができなかったらりすさんもぐみの木さんも悲しむよ。 ○　ん～だったら行かない方がよかったんじゃない？少し待てば嵐がやんだかもしれないから。
１５	３　小鳥がりすの家に行くと決めた心を考える。	○　でもやっぱり，病気で苦しんでいるりすのことが頭にずっとあって，このままじゃりすさんの病気がさらにひどくなるって考えたんだと思うよ。 ○　ぼくだったらこんな嵐の中行くのはやっぱり嫌だな。だから，そうやって考える小鳥さんは勇気があったんだと思う。 ○　それも分かるけど，自分のことも心配だったから考えていたんだし，危ないのが分かっていて飛んで行ったのは，やっぱりりすさんのことが気になって気になって仕方がなくて，体が勝手に動いてしまったんじゃないかな。 ○　きっとそうだよ。涙を流して喜んでくれたすさんのことが頭にあって，ずっと離れなくて，りすさんのことを強く思うからこそ，ぐみの実を届けに行きたくなったんじゃないかな？
１２	４　自分の生活経験とつなげて考える。	○　私は今まで迷って親切にできないことがあったんだ。親切にしようかどうか迷って勇気がでなかった。 ○　僕はね。ノートに書くときは親切にしたいとか書けるんだけど，実際に自分も同じような状況だった時はいけないと思うんだよね。この前の友達を助けに行くかどうかのお話の時もそうだったし。 ○　私はバスの中で席を譲るかどうか迷ったことがあって，その時におばあさんのことを考えたら変わろうと思えて譲ったことがあったよ。
５	５　本時の授業を振り返る。	○　私は親切にすることが大切だと分かっていたから今までもやってきていたんだけど，この前，電車の中で自分一人しかいなかったときに，物を落とした人がいたけど拾えなかったんだ。でも小鳥がりすのことを考えたように私も落とした人のことを考えて拾えるようになりたい。そしたらなりたい自分に近づくことができるかもしれない。

親切は大切だと分かっているものの，どんな状況でも親切にできると考える子どもがいます。そこで小鳥が判断に迷った理由を出し合い，小鳥が飛び立つ決断をした心を話し合うことで，迷う状況で相手に親切にするときには，自分のことだけではなく，相手のことを考えて親切にすることが大切だと気付かせていきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援（発問・指示，教材・教具，評価）

○　今よりもさらに『親切』になった自分はどんな自分なのかイメージさせ，なりたい自分ノートに記述させることで自分と価値との接点を考えることができるようにする。

○　なりたい自分と今の自分とどれだけ離れているかを問い，子どもの発言を基に板書していくことで，「親切，思いやり」について考えていきたいという気持ちを高め，見通しをもつことができるようにする。

【教具】
大型テレビ
挿絵
教師用タブレット

○　教材を読み聞かせする際は，教室前方に子どもを集め，子どもの表情やつぶやきを見取ることができるようにし，教材のどこで親切だと感じたのかを問う。そして，教材のどこで「親切」だと感じたのかを表出させ，出てきた内容を板書に整理し，登場人物同士の関係や，小鳥がぐみの実をりすに３回届けに行った内実等を議論する際，子どもが話し合う手掛かりとして使えるようにしておく。

○　小鳥がりすの家に飛び立った日はものすごい嵐であったことを小鳥に重ねて考えることができるように，嵐の音を流すことにより，小鳥の迷いやそこで決心した気持ちを考えることができるようにする。

【教具】
スピーカー

○　嵐の日，小鳥がりすの家に行くかしばらく待つかで迷った状況を板書に整理し，親切にしたい気持ちとしたいけど悩む気持ちを捉えさせた上で，小鳥の２つの心になりきって役割演技をさせることで，悩む気持ちに共感させていく。

○　役割演技は嵐の日に行くと考える気持ち役に１人，嵐がやむまで待つと考える気持ち役に１人，最終的に判断する心役として１人の計３人で行う。その際，前に子どもたちを集めてその状況を見る場を作ることで，小鳥が迷う状況を追体験させ，自分だったらどうするのかを考えることができるようにする。

○　小鳥の迷いについて検討した上で，迷った末に小鳥が飛び立つ決断をしたのはなぜなのかと問い，次の課題を設定する。

小鳥がりすの家に行くことを決めた心はどんな心だろう。

○　りすの家に「行く」理由を語る子どもが，自分の考えを発表した時に，その考えの根拠がよく分からないものは根拠を問い返し，どんな生活経験や価値観から関連させて思考しているのかを明らかにしていく。

○　子どもの考えの中で「りすが病気だったから」とりすを心配したという心や，「友達であるぐみの木のことを考えたから」と思いやる心等，自分のことだけではなく「相手のこと」についての考えが出された際，教材の世界だけで親切についての思考が閉じないように，「りす」や「ぐみの木」を「相手」と板書に整理することで，自分との関わりで考えられるようにする。

○　嵐の日に行く決断をした根拠が「勇気」だという考えや，「友達」のことを思っている等，他の価値と関連させて親切を捉えようとする思考を価値付けることで，多面的な思考を促していく。

○　自分の生活経験や価値観を根拠にした考えと全体の意見とのずれが生じた際には立ち止まらせ，その違いについてペアで話し合わせたり，その相手がどんなことを伝えたいと考えているのか近くで話を聞くよう促し「聞く語る」場を設定することで，多角的な思考を促していく。

○　子どもの道徳日記や生活日記の記述の中から，親切な行動をしようと心掛けたができなかったというものや，親切な行動をしたいけど迷ったことがあるという日記を取り上げ，小鳥が迷った状況と自分の生活経験とをつなげて考えることができるようにする。

○　次の視点で振り返りを書かせていく。

・　授業を通して学んだことを基に，なりたい自分がどう変わったのかについて。

・　自分の過去の経験を想起させ，本時の学びを基にこれからの自分について等。

【評価】
親切にするかどうかの判断に迷った際，相手のことを考え親切にすることの大切さに気付くことができる。